

水稻営農技術情報（第2号）～JA富山市米品質向上生産運動展開中～

<目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！>

- 苗が軟弱徒長にならないよう、**育苗ハウスの換気を徹底**
- 高温登熟を回避するため、**コシヒカリの田植えは5/15**を中心に！
- 基肥量は、**土壌条件に応じて調整**し、**落下量を確認**
- 除草効果を高めるために**除草剤は遅れずに適正量を散布**



1 硬化期の育苗管理

【温度管理】

- ハウス内温度は、**25℃以下**となるよう換気を徹底しましょう。
特に、晴天日は早朝から換気しましょう。
- **田植1週間前からは、夜間もハウスを開け**ましょう。

【水管理】

- かん水は朝1回を原則とし、**床土の乾きに応じてかん水**しましょう。

【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗 日数	3日	2～3日	13～15日
温度	昼	30℃	25℃以下
	夜	30℃	10℃以上

2 本田準備

- 田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。**耕起・代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努め**ましょう。
- 代かきは、**田植予定日の3～5日前に実施**しましょう。
- 代かきは**少なめの水で行い**、稲わらや雑草等をすき込みましょう。また、代かき後は自然減水とし、濁り水をほ場外に流さないようにしましょう。

3 田 植 え

- **栽植密度70株/坪、植付本数3～4本、植付深さ3cm程度**となるように田植機を調整しましょう。
※栽植密度をしっかりと確保することで、穂数が確保しやすくなり、収量・品質が安定します。

【基肥量】

- 基肥量は、**土壌に応じた施肥基準を遵守**しましょう。
- 田植時は落下量を確認し、必要に応じて開度を調整しましょう。

<肥効調節型（一発） 側条施肥>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕土	砂壤土	壤土
コシヒカリ	Jコートコシヒカリ1号	35	30	25
	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	45	40	35
てんたかく81	LPs 早生専用		43	40
てんこもり	LPss 晩生専用			
ゆうだい21	ゆうだい 21 専用	40	35	30

<分施 側条施肥>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕田	砂壤土乾田	壤土乾田
コシヒカリ	基肥 206	35	30	25
てんたかく81		45	40	35
てんこもり				

※全層施肥の場合は、基肥で5kg/10a 増量、早期追肥(田植後7日後)を 10kg/10a 程度施用しましょう。

【育苗箱施薬】

○育苗箱施薬を施用する場合は、規定量を散布しましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ヨーバルプライムEV箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回

※高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50～100gまでの範囲で調整しましょう。

4 水管理

○田植直後は、苗が水没しない程度のやや深水としましょう。

○活着後は、初期生育の促進のため浅水管理とし、早朝入水・日中止水で田水温が高くなるように努めましょう。

5 除草剤散布

＜除草剤施用時期の目安＞

	田植	田植後日数																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
初・中期一発剤体系																		
◎雑草が多いほ場	初期剤＋初・中期一発剤体系																	

ビクトリーZ1キロ粒剤

ゴエモン1キロ粒剤

エンペラー1キロ粒剤

シグナス1キロ粒剤

忍ジャンボ

カチボシジャンボ

クサウエボンジャンボ

ノビエ3.0葉期まで

ノビエ2.5葉期まで

ノビエ3.0葉期まで

ノビエ2.5葉期まで

ノビエ3.0葉期まで

雑草が残った場合は、中期剤または後期剤を散布

- 使用薬剤の登録内容を確認し、適切に使用しましょう。
- 代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布しましょう。
- 散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させないようにしましょう。
- 散布後7日間は、止水管理(落水やかけ流しをしない)とし、水田外への流亡を防ぎましょう。
- 田植同時散布機を使用する場合は、薬剤によって開度が異なるので、散布機を調整しましょう。

6. 斑点米カメムシ類発生防止対策

＜畦畔等の草刈り・除草剤散布＞

○カメムシのエサとなるイネ科雑草が出穂をしないよう、畦畔等の草刈りや除草剤の散布を行い、カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくりに取り組みましょう。

※刈り取った雑草は、用水路に流さず、適切に処理しましょう！

**○春の農作業安全確認運動「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」
(3月1日～5月31日)**

○STOP！農業機械の盗難被害!! ～営農に不可欠な機械を守りましょう!!～